

# 山口大学入試広報の効果測定

## —説明会参加者の追跡調査にみる志願者の状況—

竹本 真理恵  
林 寛子

### 要旨

18歳人口の減少、大学進学率の上昇等により、志願者獲得が今後の大学の課題となる。説明会参加者の追跡調査の結果、説明会参加は出願に繋がっており、特に山口県内の志願者にその傾向は顕著であった。また総合型選抜や学校推薦型選抜等の特別選抜志願者、専門学科の高校生は説明会に参加し、出願する傾向にあった。従って進学希望者が積極的に説明会へ参加するように促す広報を行うことが志願者獲得には重要である。

### キーワード

入試広報、進学説明会、オープンキャンパス、追跡調査

### 1 はじめに

令和5年度の文部科学省が公表した「学校基本調査」によると、大学進学率は57.7%で、過去最高の進学率となった（文部科学省，2023）。一方，2023年度入学者が定員割れした4年制の私立大学は初めて5割を超えた。進学率は上昇しているが，入学定員割れを起こしている大学の数も上昇しており，大学全入時代がより顕著に表れている（大学ジャーナル，2023）。今後18歳人口がますます減少する中，私立大学のみならず，国立大学でも入学者をいかにして確保していくかが課題である。また，入学者の質を確保する上では，一定数の志願者の確保が重要である。志願者獲得にあたっては，出願に至るまでの大学の情報発信力が求められ，効果的な入試広報をいかにして行うかが重要となる。

入試広報は，コロナ禍から大きく変化した。山口大学でもコロナ禍の2020年度以降，入試広報の方法を大きく変更した。以前の入試広

報は対面のみであったが，コロナ禍以降，対面での説明会が困難となり，オンラインを導入した説明会を開催するようになった。オンラインを導入することにより，対面では困難であった遠方の志願者に対して，情報を届けることが可能となった。一方，対面型の説明会やオープンキャンパスでは，新型コロナウイルス感染拡大防止のため，入場者数を制限した。このオンライン説明会の参加者把握，対面型説明会の入場者数把握のため，来場者管理システムを導入することにより，参加者情報を把握することができるようになった。

一之瀬ら（2023）は，参加者情報と志願者情報をマッチングすることで，説明会に参加した者が，出願したかどうかを追跡し，説明会参加者の出願率が高いこと，合格率も比較的高かったことを明らかにしている。その上で，「これまでの実績と経験によって培われてきた入試広報活動を検証し，新たな局面に対応した効果的な入試広報を展開していく必要がある」（一之瀬ら，2023）と述べている。

表1 山口大学が開催した説明会と参加者

	開催時期	形態	高校1年	高校2年	高校3年	高卒生他	その他	参加人数
ガイダンスセミナー	4月	来場型	4	41	54		1	100
個別相談会	8月	オンライン			59			59
大学説明会	9月	オンライン	7	15	105	3	1	131
大学説明会	11月	オンライン	3	27	113	4	3	150
大学説明会	12月	オンライン	3	10	65	2		80
出願直前説明会	1月	オンライン		1	98	13	2	114
来場型オープンキャンパス	8月	来場型	300	551	934	20	32	1,837
オンラインオープンキャンパス	8月	オンライン	521	812	876	60	49	2,318
合計			838	1,457	2,304	102	88	4,789

本稿では、一之瀬らの分析を参考に、山口大学の説明会参加者の特性や参加者の出願状況、参加者と不参加者との違いを明らかにし、今後の入試広報の在り方の検討を行う。

## 2 入試広報イベント参加者の追跡

### 2.1 令和4年度山口大学主催の入試広報

令和4年度、山口大学が高校生及び進学希望者を対象として企画・開催した説明会は、表1のとおりである。

4月に開催している「ガイダンスセミナー」は来場型で行い、模擬講義、入試概要、各学部説明会を行っている。新年度の4月にまず山口大学に興味を持ってもらうファーストコンタクトとして企画しており、ミニオープンキャンパスの位置づけとしている。

8月に開催している「オンライン個別相談会」は、総合型選抜、学校推薦型選抜Iを検討している志願者を対象に、出願前の疑問や質問を解消し、自信を持って出願してもらうように企画している。またオープンキャンパスに参加できなかった志願者に対して、山口大学の情報を収集できるよう、オープンキャンパス終了後に開催している。申込時に事前に質問を受け付け、その質問に対して回答する形式で個別に質問を受け付することにより、疑問を解消してもらう狙いがある。

9月、11月、12月に開催している「オンライン大学説明会」は、山口大学の教育の特色、

ワンポイント学部紹介、入試概要、在学生の声等、大学に興味を持ち始めた高校1、2年生を対象としつつ、受験を考えている3年生でも十分興味を持って参加できるような内容で開催している。特に在学生の声では、一般選抜希望だけでなく特別選抜希望等、様々な進学希望者に高校生活や受験勉強の仕方、日々の大学生活や授業のこと等を大学生が伝えることで、より身近に大学を感じてもらうことを目的に行っている。

1月に開催している「出願直前！一般選抜志願者対象オンライン説明会」では、全体説明と各学部の説明会及び個別相談会を行っている。この説明会では、共通テスト終了後、自己採点を終えた者が志望大学を確定する際、決断するため情報を届けること、そして進路変更を余儀なくされた者が入学後、迷いなく大学生活を送れるよう学部情報を届けることを目的として企画している。

オープンキャンパスでは、新型コロナウイルス感染防止対策のため、来場型とオンライン型とを並行して開催した。「来場型オープンキャンパス」では事前予約制とし、定員を設け、学部別分散日程で開催している。「オンライン型オープンキャンパス」では、来場型開催日から8月末までの期間動画配信を行っている。

このように、年間を通して入試選抜の時期等を考慮し、ターゲット層を変え、様々な入試広報を行っている。

## 2.2 分析対象者とデータの収集

表1で示したとおり、説明会に参加した参加者のうち、高校3年生、高卒生、卒業認定等、令和5年度入試に出願可能な2,406人を追跡対象者として参加者データを志願者データに紐づけした。追跡データは、志願者データをベースとして紐づけを行った。令和5年度入試の全体の志願者数は7,927人で、この全志願者と「説明会参加で不出願」972人（表3）の合計8,899人を本分析対象者とした。

各説明会の申込は企業が提供している来場者管理システムを利用している。この来場者管理システムの申込フォームに氏名、学年、出身高校、高校の所在地、高校の課程を設定することで、参加者情報を取得できる。また、説明会への出席状況等も把握することができる。この取得した情報を基に説明会参加者の氏名と出身高校コードを組み合わせ、志願者データと繋いだ。志願者データと繋ぐことで、「説明会参加で出願」した者がどの選抜を受験したか、合否の結果等を把握することができる。

なお、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜の令和5年度の志願者・受験者・合格者は表2のとおりである。全体の志願倍率は4.1倍であった。志願者の出願学部、入試区分は図1、図2のとおりである。

本分析では、どのような地域から、どのような高校生が説明会に参加し、出願、合格に繋がっているのかを明らかにするために、分析に用いる変数を、出身高校の所在地、高校の学科、合否、高校の偏差値とした。

偏差値については「みんなの高校情報」のサイトの情報を基に、記載されている各高校の学科の中で一番高い偏差値を利用する。定時制、通信制、中高一貫校等、偏差値の記載のない高校は欠損とした。偏差値は49以下、50から59、60から69、70以上の4段階に区分し分析に利用する。

表2 入試区分別志願者数と志願倍率

	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	志願倍率
総合型選抜	114	388	271	114	3.4
学校推薦型選抜Ⅰ	122	246	246	122	2
学校推薦型選抜Ⅱ	194	472	466	162	2.4
前期日程	1,170	3,503	3,157	1,348	3
後期日程	319	3,318	1,047	386	10.4
合計	1,919	7,927	5,187	2,132	4.1

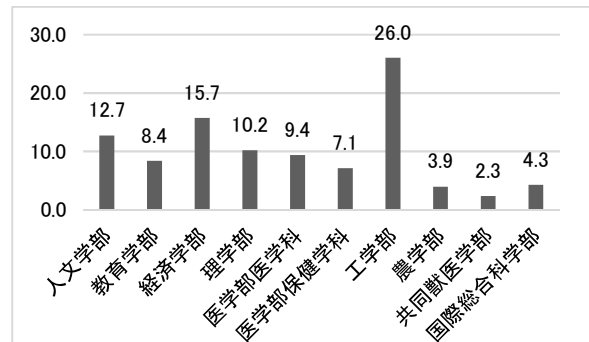


図1 志願者の出願学部

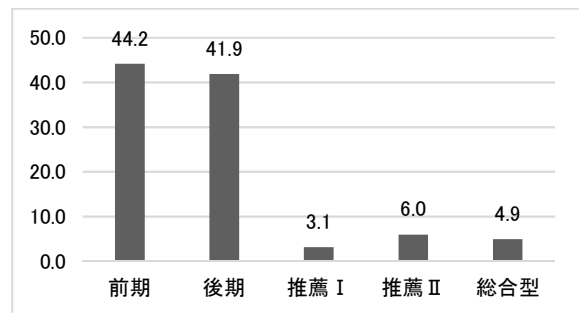


図2 志願者の入試区分

## 2.3 分析データの概要

令和4年度に山口大学が開催した説明会に参加した人数、「説明会参加で出願」した人数、「説明会参加で不出願」の人数、参加者の出願率は表3のとおりである。

山口大学の説明会に複数回参加で不出願の者及び複数の入試に出願した者は、参加者データが重複して繋がっている。そのため、参加者延べ数は3,142人となる。「説明会参加で出願」した人数は2,170人、参加者の出願率は全体で69.1%であった。オンライン個別相談会、9月・11月のオンライン大学説明会、出願直前オンライン説明会では、参加者の出願率が8割を超えた。これらは、総合型選抜、

学校推薦型選抜，一般選抜の直前に開催しており，情報を収集したうえで出願をしている者が多くいたと推測される。なお，「説明会不参加で出願」した人数は，6,054人で，志願者全体の76.4%を占める。

説明会参加者の出身高校の地域や高校の学科別は，図3，図4である。出身高校の地域別では山口県が多く，30.0%，広島県15.4%，福岡県13.5%であった。高校の学科別では，普通科が多く，88.3%であった。専門学科としては，商業科の説明会の参加割合が4%程度であった。説明会参加者の偏差値の割合は図5のとおりである。

なお，志願者の出身高校の地域や高校の学科の別については，図6，図7のとおりである。地域別にみると，山口県21.7%，広島県17%，その他地域が10%程度であった。遠方の地域からも出願している状況であった。高校の学科別では，普通科が90%近くを占めていた。志願者全体の偏差値は図8のとおりである。

志願者の入試区分別偏差値は図9のとおりである。学校推薦型選抜Ⅰ，総合型選抜において偏差値が低く，有意差があった。共通テストを課す前期日程や後期日程，学校推薦型選抜Ⅱは他の2つの選抜に比べて偏差値の高い人が志願していた。高校学科別偏差値は図10のとおりである。専門学科で偏差値の低い高校からの出願率が高く，特に農業科では偏差値49以下が100%であった。商業科や総合学科では偏差値70以上の者はいなかった。

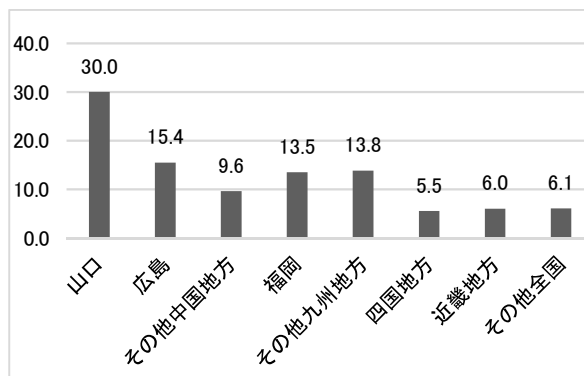


図3 説明会参加者の出身地域

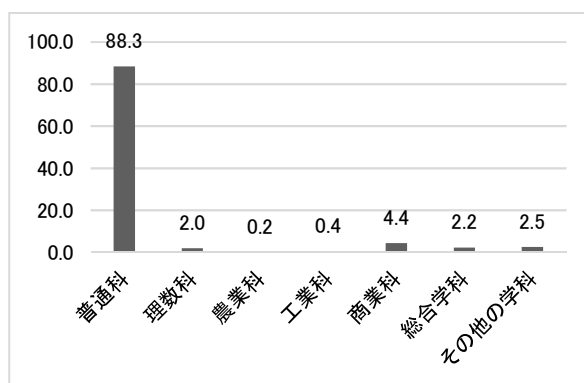


図4 説明会参加者の高校の学科

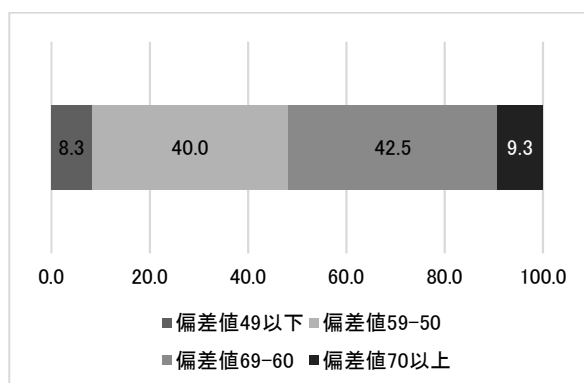


図5 説明会参加者全体の偏差値

表3 説明会参加人数と出願率

	参加者延べ数	「説明会参加で出願」人数	「説明会参加で不出願」人数	参加者の出願率
ガイダンスセミナー	73	57	16	78.1
オンライン個別相談会	95	80	15	84.2
オンライン大学説明会(9月)	158	137	21	86.7
オンライン大学説明会(11月)	171	142	29	83.0
オンライン大学説明会(12月)	83	58	25	69.9
出願直前オンライン説明会	142	115	27	81.0
来場型オープンキャンパス	1,229	833	396	67.8
オンラインオープンキャンパス	1,191	748	443	62.8
合計	3,142	2,170	972	69.1

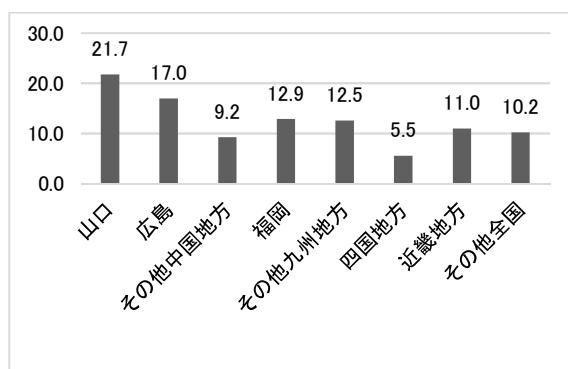


図6 志願者の出身地域

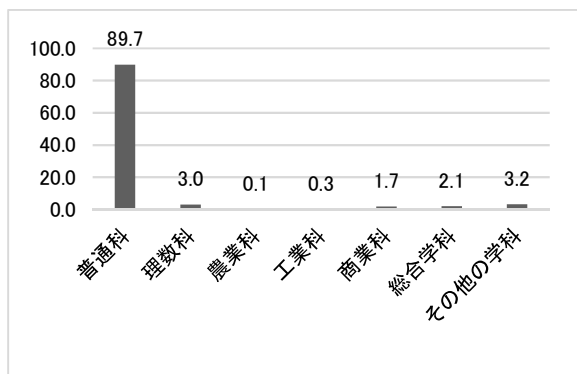


図7 志願者の高校学科

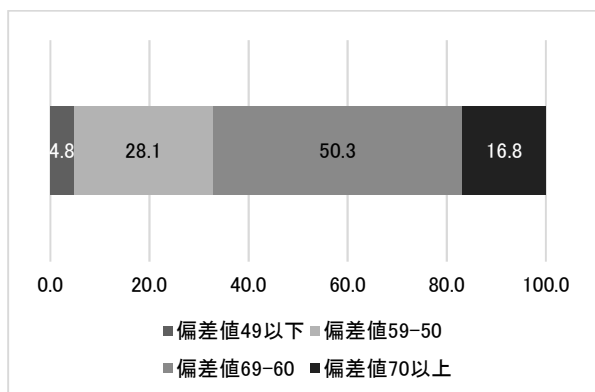


図8 志願者全体の偏差値

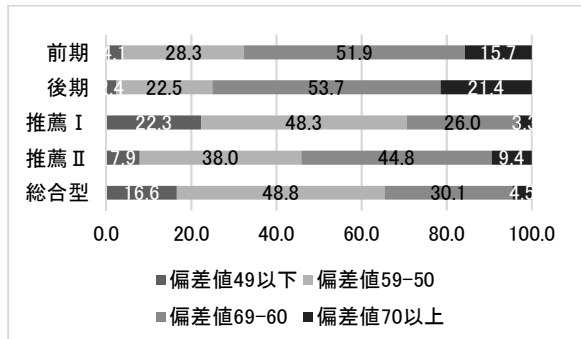


図9 志願者の入試区分別偏差値

$\chi^2 = 649.833$   $df = 12$   $P = 0.000$

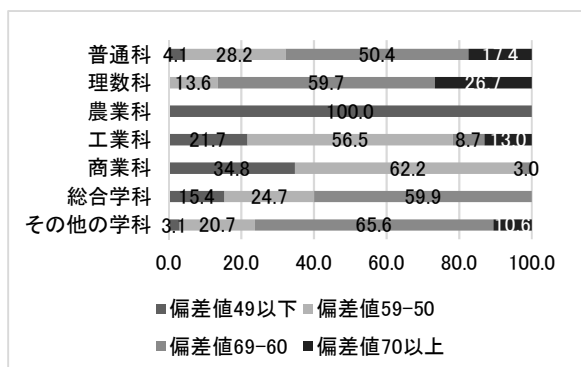


図10 志願者の高校学科別偏差値

$\chi^2 = 666.738$   $df = 18$   $P = 0.000$

### 3 説明会参加者の志願状況

#### 3.1 「説明会参加で出願」した者と「説明会参加で不出願」だった者の差異

山口大学説明会参加者全体の出願割合、地域別の参加者割合、高校学科別の割合は図11とおりでである。「説明会参加で出願」した者の割合は60.7%であった。

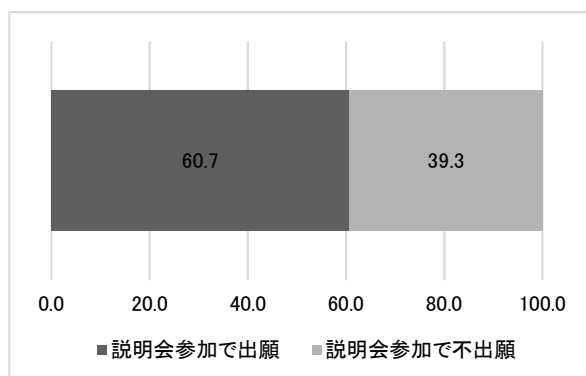


図11 説明会参加者の出願割合

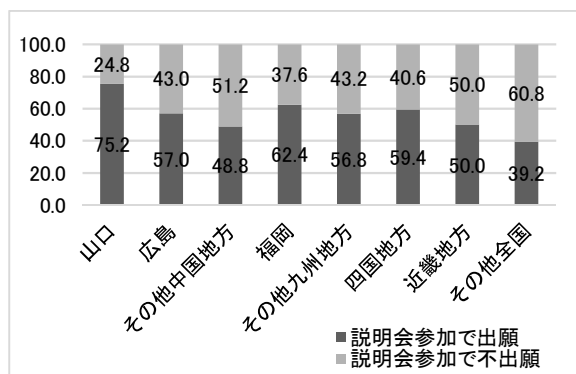


図12 説明会参加者の地域別参加者割合

$\chi^2 = 150.220$   $df = 7$   $P = 0.000$

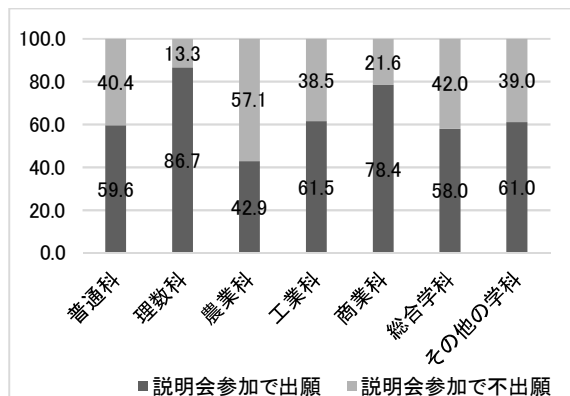


図13 説明会参加者の高校学科別

$\chi^2 = 37.095$   $df = 6$   $P = 0.000$

地域別の参加者割合は図12のとおりである。山口県では「説明会参加で出願」した者が75.2%と多く、説明会への参加は出願に繋がっている。また、近県ほど説明会に参加をして出願する傾向にある。近畿地方やその他全国等、山口県から離れるほど、参加して出願しない割合が多く、遠方の方は興味を持って参加をするが、出願には至っていない状況にあることがわかった。

次に高校の学科別の参加状況と出願状況を見る(図13)。理数科、商業科で「説明会参加で出願」した者の割合が多く、有意差があった。特に商業科は、説明会の参加率が他の専門学科と比べても多かった。商業科は説明会参加が出願に繋がっているといえる。

このように説明会参加者の出願の有無を確認すると、6割程度は出願につながっていた。また、「説明会参加で出願」した者と「説明会参加で不出願」だった者との間では、地域や高校の学科別で有意な差がみられた。

### 3.2 「説明会参加で出願」した者と「説明会不参加で出願」した者の差異

次に「説明会参加で出願」した者と「説明会不参加で出願」した者との違いを確認する。

入試区分別の説明会参加者の出願状況は図14のとおりである。学校推薦型選抜Ⅰ，学校推薦型選抜Ⅱ，総合型選抜において「説明会参加で出願」した者の割合が高く7割前後であった。前期日程では2割，後期日程では1割程度にとどまった。学校推薦型選抜，総合型選抜では明確に志望大学があり，その大学に合格するための対策として，大学から発せられる情報を獲得しようとする傾向が伺える。一方，前期日程や後期日程では，志望大学があっても，共通テストの結果によって変更せざるを得ず，説明会に参加しても出願に至らない志願者がいることが推測できる。また，山口大学が行っている入学時調査においても山口大学を志望校の一つに決めた時期を聞いて

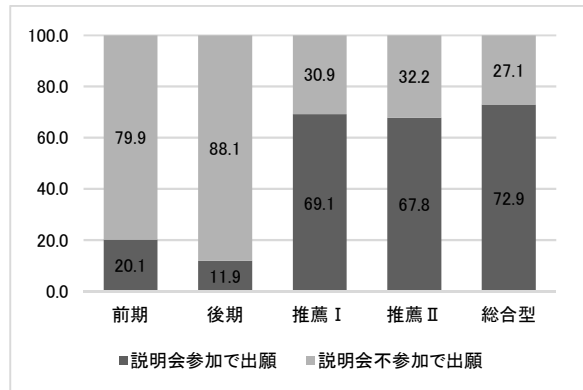


図14 入試区分別説明会参加の有無  
 $\chi^2= 1591.549$   $df=4$   $P=0.000$

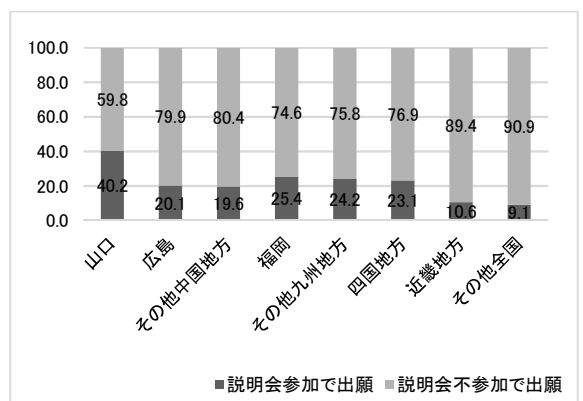


図15 出身高校地域別説明会参加の有無  
 $\chi^2= 457.082$   $df=7$   $P=0.000$

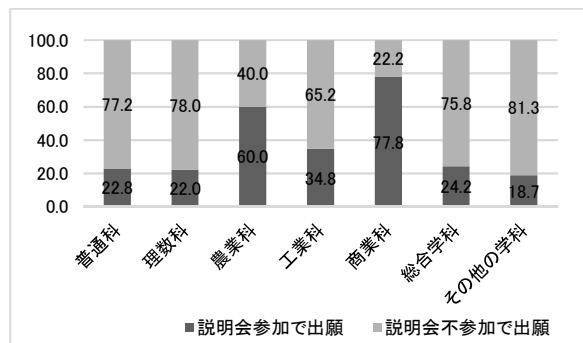


図16 高校学科別説明会参加の有無  
 $\chi^2= 231.234$   $df=6$   $P=0.000$

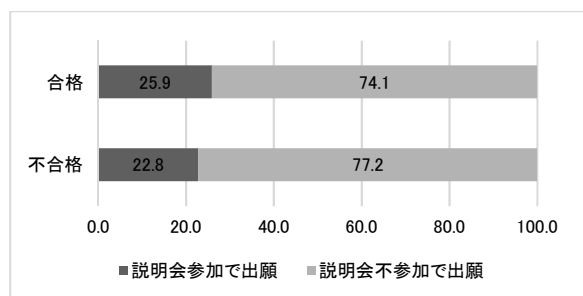


図17 合否別説明会参加の有無  
 $\chi^2= 8.277$   $df=1$   $P=0.004$

ているが、前期日程での入学者3割、後期日程での入学者5割が共通テスト自己採点終了以降に決めている（山口大学アドミッションセンター，2023）。このことから、前期日程、後期日程においては、希望の大学に出願することが難しいことがわかる。

地域別の説明会参加者の割合は図15のとおりである。「説明会参加で出願」した者が山口県で4割程度、広島県、福岡県等の近県で2割程度、近畿地方、その他全国が1割程度の割合となっている。

次に高校の学科別は図16のとおりである。専門学科に在籍している志願者は「説明会参加で出願」している割合が高かった。特に商業科では8割近くの者が説明会に参加したうえで出願をしていた。専門学科の者は説明会に参加し出願する傾向にある。

さらに合否別割合は図17のとおりである。割合に大きな差はないものの、有意な差がみられた。合格者は「説明会参加で出願」の割合がやや高く、少なからず合格に影響しているといえる。

以上のように、総合型選抜、学校推薦型選抜等の特別選抜において、また専門学科において出願割合が高かったことから、説明会参加は合格を得ることに少しは寄与していると考えられる。

ここまでは、入試区分や出身高校地域、高校学科別で検証を行ったが、高校による違いをより詳細に明らかにするために高校の偏差値を用いて分析を行ってみる。

## 4 高校の偏差値にみる説明会参加者の状況

### 4.1 「説明会参加で出願」した者と「説明会参加で不出願」だった者の偏差値による差異

「説明会参加で出願」した者と「説明会参加で不出願」だった者の高校の偏差値による違いを確認した。説明会参加者の出願の有無別高校の偏差値は図18のとおりである。「説

明会参加で出願」した者と「説明会参加で不出願」だった者とで偏差値による有意な差はなかった。

次に「説明会参加で出願」した者と「説明会参加で不出願」だった者との高校の学科別偏差値を確認した（図19）。その他の学科で「説明会参加で不出願」の者は、偏差値70以上の高校の割合が高く、有意な差がみられた。他の学科に有意な差はなかった。

### 4.2 志願者の「説明会参加で出願」した者と「説明会不参加で出願」した者の偏差値による差異

次に志願者の「説明会参加で出願」した者と「説明会不参加で出願」した者の高校の偏差値による違いを確認する（図20）。

「説明会参加で出願」した者は偏差値が60より下の高校の割合が高く、有意差があった。次に合格者、不合格者の「説明会参加で出願」した者と「説明会不参加で出願」した者の高校の偏差値は図21のとおりである。合格者も不合格者も「説明会参加で出願」した者の方が偏差値の低い割合が高く、有意差があった。さらに入試区分別の「説明会参加で出願」した者と「説明会不参加で出願」した者の高校の偏差値を確認した（図22）。総合型選抜では、「説明会参加で出願」した者と「説明会不参加で出願」した者に大きな差はなく、有意差はなかった。学校推薦型選抜Ⅰ、学校推薦型選抜Ⅱでは、「説明会参加で出願」した者が偏差値60より下の割合が高く有意差があった。前期日程、後期日程では、「説明会参加で出願」した者の全体の偏差値が低い傾向があり、有意差があった。高校の学科別で「説明会に参加で出願」した者と「説明会不参加で出願」した者の偏差値は図23のとおりである。普通科と総合学科においては、「説明会参加で出願」した者の方が偏差値の低い者の割合が高かった。工業科では、「説明会参加で出願」した者は偏差値49以下と偏差値

70以上の者はいなかった。普通科，総合学科，その他の学科で有意な差があった。

このように，「説明会参加で出願」した者と「説明会不参加で出願」した者の高校の偏差値を確認してみると，「説明会参加で出願」した者は，合否別，入試区分別，高校学科別いずれにおいても「説明会不参加で出願」した者より高校の偏差値が低く，有意な差がみられた。「説明会参加で出願」した者は，高校の偏差値が低いものの，希望する大学に入学できるよう，大学から発せられる情報を得る努力をしていることが伺えた。

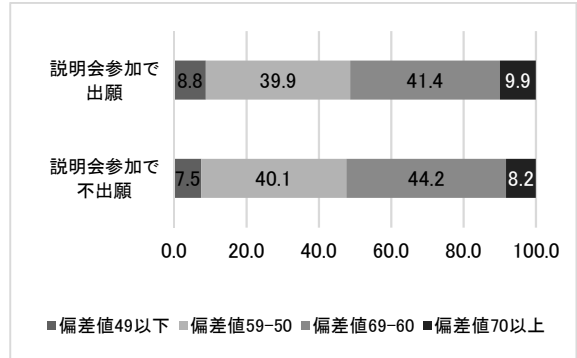


図18 説明会参加者の出願の有無別高校の偏差値

$\chi^2 = 4.833$   $df=3$   $P=0.184$

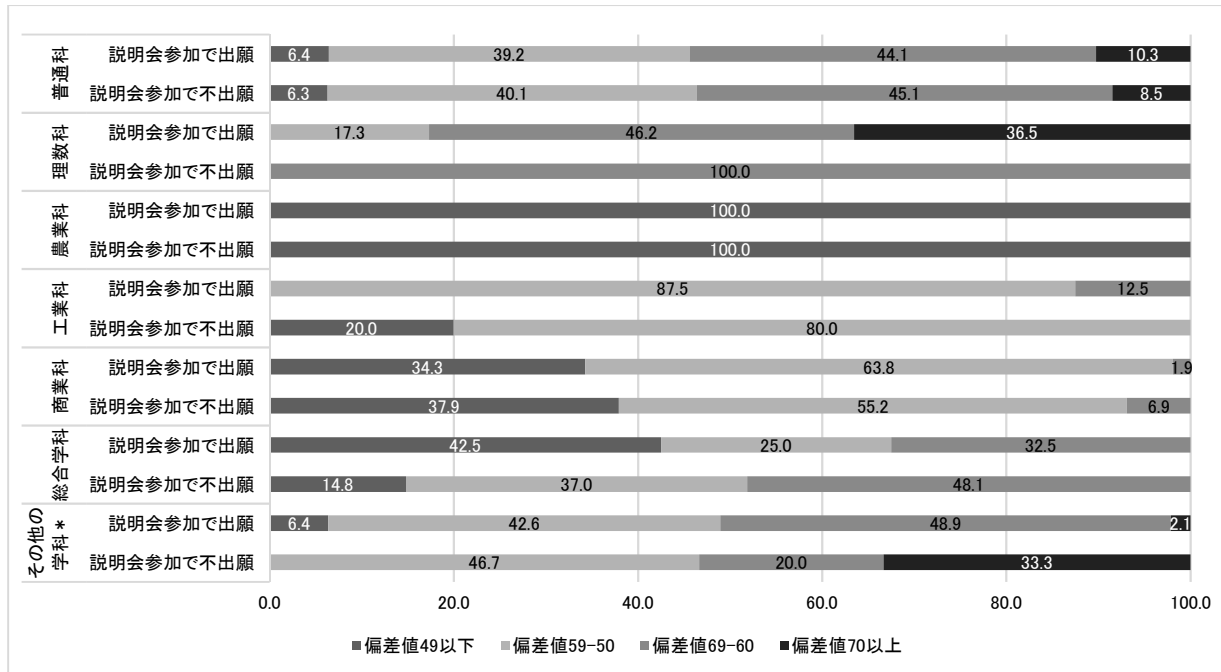


図19 高校学科×説明会参加の有無×高校の偏差値

\*:  $P < 0.05$  \*\*:  $P < 0.01$

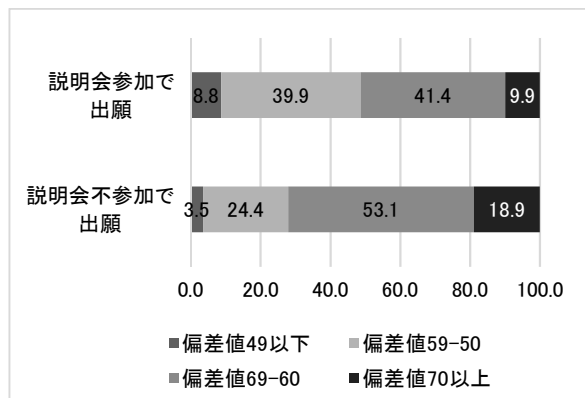


図20 志願者の説明会参加の有無別高校の偏差値

$\chi^2 = 301.640$   $df=3$   $P=0.000$

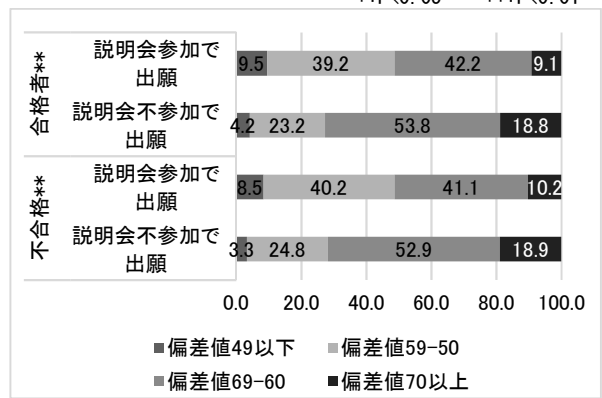


図21 合否×説明会参加の有無×高校の偏差値

\*:  $P < 0.05$  \*\*:  $P < 0.01$



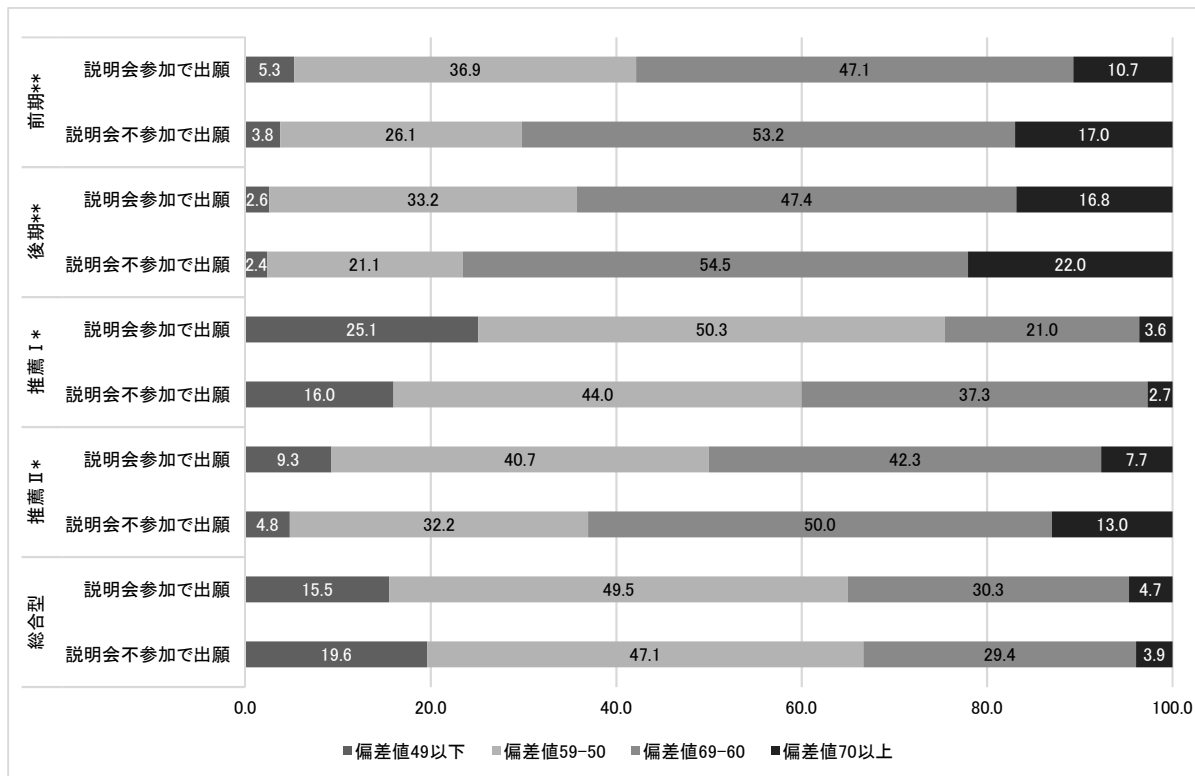


図22 入試区×説明会参加の有無×高校の偏差値

\*:P<0.05 \*\*P<0.01

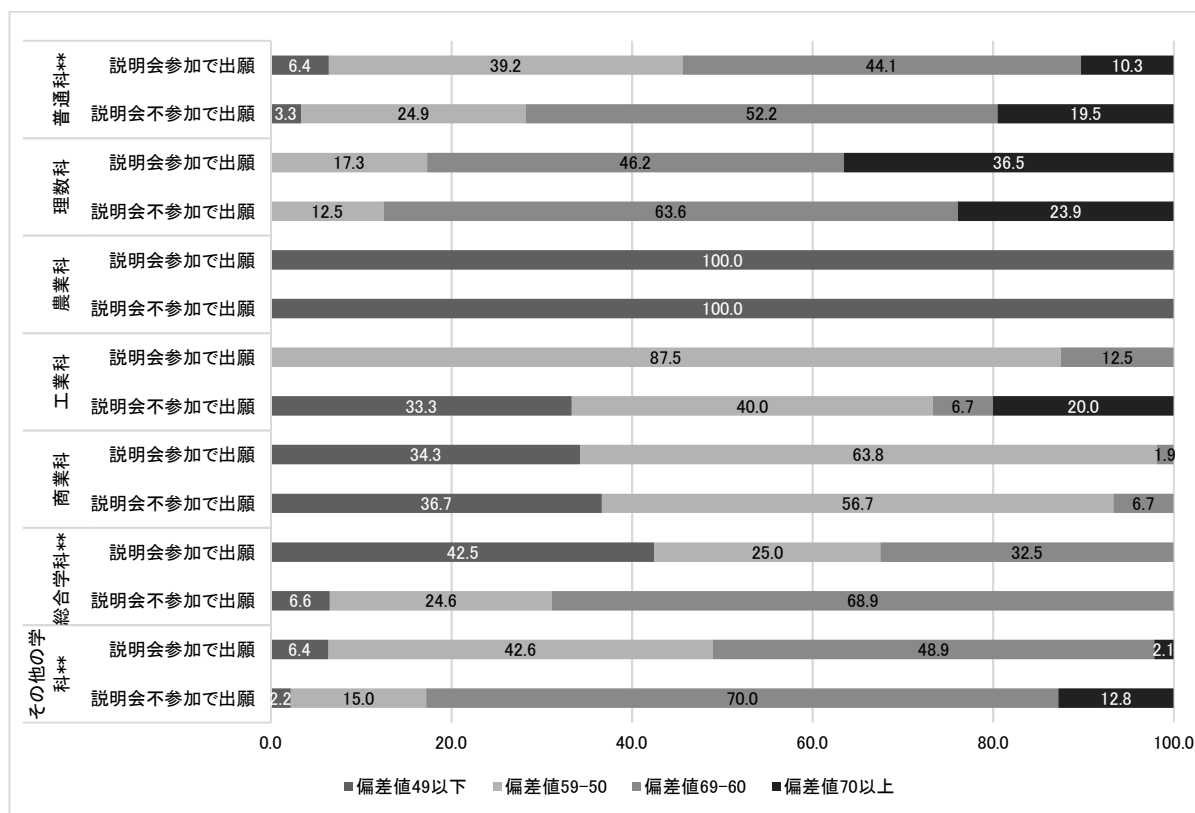


図23 高校学科別×説明会参加の有無×高校の偏差値

\*:P<0.05 \*\*P<0.01

## 5 まとめ

山口大学の説明会に参加した者の多くは出願をしている。特に山口県からの参加者は説明会への参加が出願に繋がっており、いかにして説明会へ参加するように促すかが重要となる。総合型選抜や学校推薦型選抜においては、「説明会参加で出願」した者が多かった。また専門学科も「説明会参加で出願」した者が多かった。これらの特別選抜や専門学科から出願する者は高校の偏差値が低い傾向がみられた。偏差値が低い高校から出願する者は、自らの行きたい大学の説明会に参加することで、しっかりと大学研究を行い出願していることが伺える。入試広報を行うに当たっては、説明会開催の情報をしっかりと届けることが重要である。開催情報を届け、参加してもらうことで出願に繋がる。

一方、前期日程や後期日程、遠方からの説明会参加者の出願は芳しくなかった。これらの出願を促すため、また、山口大学をターゲットにしていなかった者が、共通テスト終了後に進路変更を検討し、切に山口大学の情報を求める者に「出願直前！一般選抜志願者対象オンライン説明会」に参加を促し、必要な情報を届けることが効果的な広報に繋がると考える。

今回、コロナ禍で来場者の把握が必要となり、来場者管理システムを導入することで、志願者との情報を結びつけることができ、説明会参加者の出願動向を確認することができた。その結果、説明会に参加した者にはある程度出願が見込めることがわかった。今後も説明会を開催する時期等を考慮し、志願者獲得に繋がる広報を展開していくことが重要である。

(アドミッションセンター  
アドミッションオフィサー)  
(アドミッションセンター 准教授)

---

### 【参考文献】

文部科学省，2023，令和5年度学校基本統計（学校基本調査の結果）確定値を公表します。

[https://www.mext.go.jp/content/20230823-mxt\\_chousa01-000031377\\_001.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230823-mxt_chousa01-000031377_001.pdf)

(2023.12.27取得)

一之瀬 博・平井 佑樹，2023，「コロナ禍における信州大学アドミッションセンターの対面型入試広報活動の分析－WEB進学相談会及びミニオープンキャンパス実施の結果－」『大学入試研究ジャーナル』第33号，7-12.

大学ジャーナルONLINE，2023，「過去最大53.3%の私立大学が定員割れ，私立短大は92.0%が定員割れに」

<https://univ-journal.jp/234032/>

(2023.12.25取得)

山口大学アドミッションセンター，

2023，「大学受験時の状況に関する調査報告書 2023年度」

みんなの高校情報，

<https://www.minkou.jp/hischool/>

(2023.12.1取得)